

日本脳神経外科コンgres総会 2011 横浜

「ニューロリハビリテーションの進歩」

「第31回日本脳神経外科コンgres総会 2011 横浜」が、岩手医大脳神経外科学講座 小笠原邦昭教授の会長のもと5月6日～8日、パシフィコ横浜にて開催されました。

その中でプレナリーセッションとして「ニューロリハビリテーションの進歩」が5月6日に開催され、1. 運動麻痺改善に向けたニューロリハビリテーションの新展開（相澤病院リハ科・原 寛美）、2. 失語症における脳機能画像とニューロリハビリテーション（慈恵医大リハ医学講座、安保教授）、3. リハビリテーション医療におけるロボット支援訓練（産業医大リハ医学 蜂須賀教授）4. ブレイン・マシン・インターフェイスによる運動・言語機能再建（大阪大学脳神経外科 平田・吉峰教授）の4題のプレゼンが行われました。

3000名の脳神経外科医が参加したこのような脳神経外科の学会において、リハビリテーションをテーマにした企画がなされたのは画期的なことと言えます。このセッション「ニューロリハビリテーションの進歩」の開催は、会長の小笠原邦昭教授のリハビリテーションを強く支持するスタンスに依拠しており、脳卒中治療にはリハビリテーションは不可欠であること、リハビリテーションの方法論は今日新たな時代に入っていることをプレゼンする重要な機会となりました。

